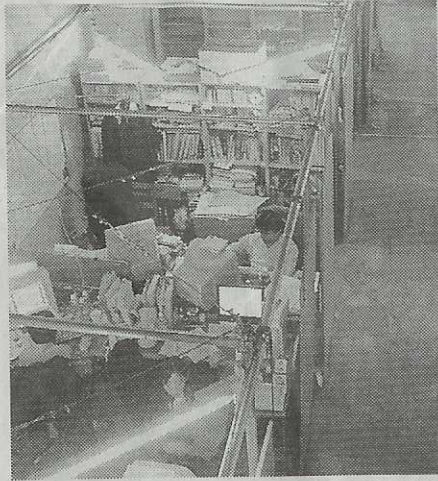


ビジネスレッスン



一つのオフィスを複数の事業者が共有する「オフィスシェアリング」が東京都心などで増えている。運営業者がフロアを緩やかに区切り、ベンチャー企業などに貸す。入居費用が割安なだけでなく、他社との交流や共同受注も促す、都心のミニクラスター(関連ある組織や個人の集まり)の機能も果たし始めた。

室内をパネルやカーテンなどで二層四方程度に区切る方式が主流で、天井まで壁で覆う「個室型」のレンタルオフィスとは異なる。設備が比較的簡易で済むためビル所有者の初期投資も軽く、安く貸せる。供給過剰に伴うオフィス空室対策が背景だが、緩やかな仕切り

オフィスシェアリング

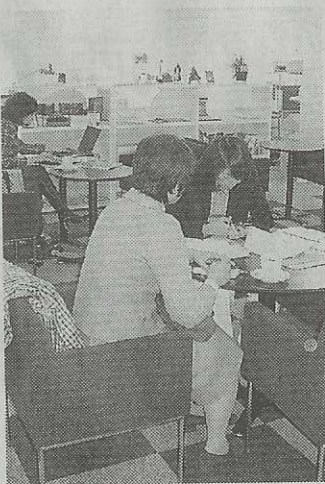
入居費用が割安に 他社との交流生む効果

りが付加価値を生んだ。六本木など東京都心三カ所でのタイプのオフィス運営するアップステアーズ(東京・港)はデザイン会社やシステム開発会社など約七十社と利用契約を結んでいる。利用料は入会金二万五千四百円のほか共益費を含め月三万一千四百五十円。コピーやファクスなどは利用回数などに応じて課金。共有会議室もある。月二回、昼食会を開き互いの事業などについて話し合う。金子陽三社長は「隣の顔が見えやすく入居者の顔が見えやすく入居者の

の事業に関する情報が集積する」と強調する。赤坂、大森など三カ所でオフィスシェアリング事業を手掛けるワークプレイスミューコム(東京・港)の場合、利用料は月六万六千円程度(光熱費含む)で、二層×一・五坪の区画を使

駆け込み レクチャー

アップステアーズが東京・赤坂に開いたオフィス⑧はパネルで緩やかな仕切り。ハッチエッグの「Heiz銀座」では空いているスペースを自由に使う



える。近く四カ所目を新橋に開く計画だ。区画自体を撤廃したタイプもある。コンピュータ関連サービスのハッチエッグ(東京・中央)は今年五月、銀座に共同利用型オフィス「Heiz(heiz)」を開設した。現在約六十社が会員契約し、一旦二十一人が共用のいすを交互に利用する。利用料は入会金八万四千円に加え、サービス内容に応じて毎月約五万一千八百円程度。東京での営業拠点として利用する地方企業なども目立つ。公的機関も地域活性化の手段として着目し始めた。自治体が空き校舎などを起業拠点として貸す事業は従来もあるが、これもオフィスシェアリング型に進化。東京都世田谷区は廃校した中学校校舎をイデアールプロジェクト(東京・港)に貸与。同社は十月にデザイン会社や映画撮影会社などが入居する「世田谷ものづくり学校」と名付けたオフィスを開いた。日本政策投資銀行もオフィスシェアリング事業を対象にした融資制度を設けている。



「常識力」や「ビジネス能力」の検定試験の問題集も数多く発行されている

入社してからでは遅い?



後の人事給与に反入社時の「一年後」差が出て材マネッ情報技ティンクテムコン入社した三月月間給与水準その段階等級が人も出ア

常識も「学ぶ」時代に